

羽衣国際大学

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

自己点検・評価報告書

令和8年3月

羽衣国際大学

数理・データサイエンス・AI 教育委員会

1 点検・評価の実施

令和4年度に開講した「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の対象授業科目について、学生への授業評価アンケート結果や担当教員からの意見等を踏まえて、授業内容、方法など本教育プログラムの点検・評価を行った。

2 点検・評価の対象授業科目

令和年度に開講した「情報処理入門」、「統計学」の2科目について点検・評価を実施した。

3 自己点検・評価の結果等

(1) 学内からの視点

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等	評価
プログラムの履修・修得状況	学部・学科を問わず履修されており、これまでの対象科目の履修者数は累計799名(令和7年度は244名)に達しています。また、令和3年度よりスタートした本プログラムにおいて、修了に必要な全単位を取得した学生は207名となっています。 令和4年度には文部科学省の認定を受け認知度が高まってきたが目標の数字には届いていない。次年度は開講科目数を増やし、修了者の増加を図る予定です。	D
学修成果	本プログラムは令和3年度に開始され、自己点検・評価につながる本格的なフィードバックを毎年実施しています。実施初年度から4年が経過し、学生アンケートの結果や担当教員の意見を踏まえて改善を行いました。しかし、令和7年度の認定者数は20名となり、昨年度より減少しました。	D
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	令和7年度後期に実施した授業評価アンケートでは、満足度に関する項目で「10点」(満点)と回答した学	B

	<p>生が 24%、「8 点以上」の割合は 48%を超える結果となり、例年と同様に学生の理解度は概ね良好であることが確認されました。</p> <p>また、予習・復習に関する項目では「10 分以上」と回答した学生が 40%を超え、年々予習・復習の定着が進んでいることがうかがえます。しかし、「0 分」と回答した学生も 31%にのぼることから、今後の課題として検討し、さらなる改善に努めていく予定です。</p>	
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>本学では、本プログラムの対象科目受講者全員を対象に授業評価アンケートを実施しており、教員の話し方や授業の進行、配付資料の分かりやすさ、理解度などについて評価を行っています。回答結果をもとに、数理・データサイエンス・AI 教育委員会が必要な改善に取り組むことで、学生への推奨度向上を目指しています。</p> <p>また、本プログラムについては、学期初めの履修ガイダンスや履修ガイドブック、WEB ポータルを活用し、積極的な周知に努めています。</p>	C
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本プログラムは令和 3 年度にスタートし、全学的な履修者数および履修率の向上に向け、試行錯誤を重ねながら取り組んでいます。</p> <p>令和 7 年度の履修者数は、現代社会学部 151 名、人間生活学部 50 名でした。今後も、時間割上の履修しやすさを工夫するとともに、本プログラムの周知を継続することで、履修者数および履修率の向上が期待されます。しかし、令和 7 年度も食</p>	D

	<p>物栄養学科の履修率が低い状況が続いており、その向上が今後の課題となっています。</p> <p>令和8年度以降は、開講曜日や時限の見直しを行い、さらなる履修者数の増加を見込んでいます。続き行うことなどにより、履修者数、履修率の向上が期待できるが、令和6年度も食物栄養学科の履修率が低く、向上することが今後の課題となっている。</p>	
--	--	--

(2) 学外からの視点

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等	評価
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>本プログラムは令和3年度からのスタートしたものであり、現時点で修了者は190名となった。(令和3年度後期から令和7年度実績)</p> <p>令和7年度卒業生の進路は概ね決定しているが、本プログラム修了による直接的な活躍状況や企業評価については、修了生が少数のため次年度以降の継続的な課題と位置づけている。</p> <p>本プログラムは基礎リテラシーの習得に重点を置いた2科目構成であるため、単体での評価は容易ではないが、全学的なデータサイエンスへの意識向上には寄与している。今後は、就職先における実務での活用状況を追跡し、社会ニーズに合致した教育内容であるかを点検・評価していく方針である。</p>	<p>D</p>

<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本プログラムは導入初期段階にあるが、企業懇談会や合同説明会等の場を「産業界との対話の窓口」として活用し、教育内容や演習手法に関する意見収集に着手していく予定である。</p> <p>第Ⅲ期中期計画における認定取得率の目標達成を見据え、収集した企業ニーズを「数理・データサイエンス・AI 教育委員会」での審議を経て、速やかにカリキュラムの改善や見直しに反映させる体制を構築している。今後は事例の蓄積を図り、より社会実態に即した教育プログラムへと進化させていくことが課題である。</p>	<p>D</p>
--------------------------------------	---	----------

(3) その他

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等	評価
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>授業では、学生にとって身近なサービスや製品の具体例を積極的に活用しながら説明を行い、数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を理解できるよう努めています。</p> <p>基盤教育科目として設定され、学部・学科を問わず履修可能な「プロジェクト演習」は、課題解決型の授業であり、フィールドワークや各種調査で得られた情報の集計・分析が求められる場面が多くあります。本プログラムを受講することで、学生は数理・データサイエンス・AIを「学ぶことの意義」を、実体験を通じて理解できています。</p>	<p>B</p>

	<p>さらに、本プログラムを修了した学生が、卒業研究や実験系科目においてデータ計測や分析を行う際にも、数理・データサイエンス・AIを「学ぶことの意義」をより深く理解することが期待されます。</p>	
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>数理・データサイエンス・AI教育委員会では、学生による授業評価アンケートの結果や対象科目担当教員の意見を踏まえ、授業内容や指導方法の改善を進めています。内容・水準を維持・向上させるとともに、より「分かりやすい」授業となるよう検討を重ねていきます。</p> <p>また、本学は大学改革推進等補助金（デジタル活用教育高度化事業）の採択を受け、DX推進計画のもと、動画を活用した反転授業の導入を進めています。対象科目についても反転授業を推進することで、内容・水準の維持・向上を図りながら、より「分かりやすい」授業の実現が期待されます。</p> <p>さらに、本学は数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムへの加盟し、最新の情報を収集しながら、教育内容・水準の向上に取り組んでいきます。</p>	B

自己評価基準

- S：目標を大幅に上回っている
- A：目標を上回っている
- B：目標を概ね達成している
- C：目標をやや下回っている
- D：目標を下回っており、大幅な改善が必要